

陶製折り鶴750羽

「原爆の子の像」に捧げる



県原水協は4日、静岡から送られた陶製の折り鶴750羽を「原爆の子の像」に捧げました。この折り鶴は静岡県在住の曾根孝一さんから年末に寄贈されたもの。曾根さんは教員を定年退職後、陶芸を始め13年目になります。今では陶芸教室を開くほどになっています。学生時代から署名活動に参加したり、「3・1ピクニック」や世界大会にも参加したことがあります。昨年の終戦・原爆報道を見て、自分にできることがないか模索し、陶製の千羽鶴をつくることを思い立ったそうです。子供の頃から、静岡空襲や第五福竜丸のこと、「原爆マグロ」などの話を聞き、また学校の図書館で見た被爆写真に強烈

なショックを受けたということです。今回作成した千羽の折り鶴を広島など関係団体に送ることを考え、原爆病院に100羽を送るなどして、



750羽を県原水協に寄贈したいと連絡があったものです。曾根さんのこの思いをいかそうと、原爆の子の像の前でセレモニーを行いました。高橋代表理事、県被団協の佐久間理事長が今年こそ核兵器廃絶を、との決意を表明し、みんなで記念写真におさまりました。訪れた観光客の皆さんにも好きな色を選んで持って帰っていただきました。